

# 2023年度 ベトナム研修 報告書

医療科学部 放射線技術学科 3回生 氏名 山岡 由佳

## 〈 研修概要 〉

2024年2月25日から3月7日までベトナム研修に参加しました。ホーチミン市ではチョーライ病院での実習、フエ市ではフエ医科薬科大学の学生との国際交流プログラムに参加しました。

## 〈 研修参加の目的 〉

私は幼い頃から自分の意思を伝えることが苦手で、周りから自分の考えを強く批判されることや失敗することを恐れ、自分が成長できるチャンスを逃していたことに大学1年生の時に気付きました。診療放射線技師はチーム医療の一員として他の医療職と連携して情報の共有が必要であり、自分の考えを伝えることが求められます。ベトナムの学生との交流を通じ、言語の壁を越え自分の意思を伝えられれば、自信が得られると考え本研修に参加しました。

## 〈 研修で学んだこと 〉

### 病院実習

チョーライ病院では、ホーチミン医科薬科大学の学生と共に臨床実習を受けました。彼らは、診療放射線技師の方へ様々な質問や、患者誘導、ポジショニング、静脈ルート確保、抜針など自分ができる事を患者対応や画像処理の合間に率先して行動していました。彼らの学びに対する積極的な姿勢に、自身に不足している積極性を持っていると思いました。彼らのように積極的に自分で考えて行動できるようになりたく、ホーチミン医科薬科大学の学生に質問はできましたが、業務中の診療放射線技師の方には質問する勇気はありませんでした。しかし、ホーチミン医科薬科大学の学生と会話を重ねたことで英語での会話にも慣れ、最終的には指導を担当して下さった診療放射線技師の方に質問できるようになりました。拙劣な英語だと思われたくない自身のプライドと他人の視線が英語で会話する妨げになっていました。他人の視線を気にせずに行動すれば自分の成長に繋がることが分かりました。医療現場ではミスや事故を起こすとインシデントレポートを書かなければなりません。ミスや事故を恥じて他人からの評価に



▲ 臨床実習の様子



▲ 病院スタッフとパーティーの様子

執られるのではなく、自分の過ちを受け入れて今後に活かせる誠実な診療放射線技師になりたいと思いました。実習中はCT装置を操作させていただく機会に恵まれましたが初めてのために上手く操作できませんでした。しかし、ベトナムの学生は診療放射線技師の方の指示がなくても患者のポジショニングから撮影まで単独で完結できており、圧倒的な臨床経験の差を感じました。診療放射線技師を志す学生としてポジショニングやCT装置の操作の経験不足を痛感しました。日本の診療放射線技師養成カリキュラムではベトナムの学生のような臨床経験を積むことはできませんが、放射線の生物学的影響や全モダリティの撮影原理などを学ぶ時間は十分にあります。このような座学の知識を活かせば、患者の被曝低減や患者への検査説明など、患者に寄り添った検査の実

施につながられます。ないものねだりになるのではなく、自身の環境を最大限に活かして今できることを精一杯やるのが自分の成長を促すと思いました。また、4年次の臨床実習ではポジショニングや装置の操作方法を積極的に学び、検査目的に沿った適切な画像を提供できる診療放射線技師になりたいと思いました。

タンアン総合病院の実習は体調不良により参加できずホテルで休息していました。実習を終えてホテルに帰ってきた友人が私の体調を気遣い、ホテルに夕食を注文してくれて嬉しく思いました。この経験から私は患者の状態を具体的に観察し、全ての患者が快適に検査を受けられるような診療放射線技師になりたいと思いました。どのような状態の患者にも対応できる技術を身に付けるためには解剖学への深い理解が必要であると思いました。解剖学への理解を深めれば患者が快適な体位で撮影できますが、マンモグラフィ検査は解剖学への理解を深めても快適な検査の提供が難しいと考えています。マンモグラフィ検査は羞恥心や乳房圧迫による痛みなど、患者に多大な負担を強いるために診療放射線技師には患者に配慮する能力が求められます。確かな技術を身に付けて迅速に検査を進められれば、患者の羞恥心や痛みを軽減できます。そのために、ポジショニング方法を十分に理解しマンモグラフィ検査の臨床経験を積みたいと思いました。

フエ医科薬科大学附属病院では一般撮影検査の研修を受けました。一般撮影検査では、画像処理や腰椎の正面・側面撮影のポジショニングを学びました。最初は画像処理方法が分からず戸惑いましたが、フエ医科薬科大学の学生が優しく丁寧に教えてくれて無事に画像処理できました。また、ハニー先生が腰椎撮影のポジショニングを英語で説明してくださり、本学の講義で学んだ内容と照らし合わせて学びました。最終的には、単独で腰椎撮影のポジショニングができるようになりました。フエ医科薬科大学附属病院での研修中、ハニー先生は私たちが理解しているか確認しながら説明してくださったお陰で説明内容を深く理解できました。画像処理では知識が乏しいために指示通りの作業しかできませんでした。腰椎撮影は座学の知識があり、説明を容易に理解できました。これらの経験から、自身の知識量で理解度が変わることを学びました。私は自分が持っている知識は相手も知っているという姿勢で話す癖があるため、相手の視点に立って話せるようになりたいと思いました。そのために普段の会話から相手の視点に立って考えることを習慣付けたいと思いました。



▲ 病院スタッフとパーティーの様子



▲ ディスカッションの様子

## 国際交流

フエ医科薬科大学の学生との交流プログラムでは「脊椎損傷疑いによるネックカラー装着患者の移動における適切な対応」というテーマでグループディスカッションしました。ディスカッション中は特にベトナムの学生から多くの意見が出されました。これは、症例ごとに適切な対応を考えながら臨床実習を受けているからできる行動であると思いました。私も診療放射線技師を志す学生として、患者が放射線画像検査を受ける際の安全性を考えながら4年次の臨床実習を受けたいと思いました。

私は英語力に自信がなく、ベトナムの方々と意思疎通できるか不安でした。ベトナムの方々は私の意見に耳を傾けて理解しようとしてくださりましたが、初めは伝えたいことが中々伝わりませんでした。しかし、間違いを繰り返しながら何度も伝えようとすることで意見を伝えることができました。日本には、医療従事者に自分の意思を伝えられない患者が多くいると思います。これは、医療従事者の言動を絶対視し、多忙な業務中に自分の話を聞いてもらうことに気後れするからだだと思います。本研修でベトナムの方々が私の言葉を理解しようとしてくれたように患者の声に耳を傾け、気持ちを汲み取れる診療放射線技師になりたいと思いました。

フエでの研修期間中にフエ医科薬科大学の学生がフエ市内の観光地を案内してくれました。英語での観光案内は難しかったと思いますが、彼らは私たちが訪れた場所について説明してくれました。これは親切心に加え、自国を知ってほしい思いがあったからだだと思います。彼らの自国愛に触れ、地元について何も知らない自分に気付き恥ずかしく思いました。次にフエ医科薬科大学の学生が本学を訪問するときには京都や京都の観光地を説明できるように今から準備を進め、日本人代表として彼らをおもてなししたいです。さらに、フエ市での国際交流期間中に先方の学生がパーティーを催してくださいました。パーティー中は私の飲み物がなくなるとすぐに注いでくださり、アレルギーで食べられない食事が出てくると代替りの食事を提供してくださるなど、彼らのきめ細やかな気遣いに感動しました。私も視野を広げ、気遣いできる人になりたいと思いました。



▲ フエの学生との観光



▲ フエの学生とパーティー

## 〈まとめ〉

日本語が通じない国での生活は貴重な経験でした。本研修ではベトナムの方々の勤勉さや暖かい心に触れました。また、ベトナムの学生は学習意欲が高く、自分の意思が明確な方が多かったです。私は意見を述べるのが苦手です。自分に自信がなく失敗を恐れ、相手の顔色を伺うことが多く、自分の気持ちを伝えることを諦めていました。しかし、診療放射線技師の方への質問やディスカッションでの意見表明などの経験を通し、自分の意思を伝える力を身に付けられたと思います。今後は本研修で培った伝える力を活かし、衆人環視の中で自分の意見を伝えられるように成長したいです。

〈 謝辞 〉

多忙な臨床業務の傍ら、私たちの研修を受け入れてくださったチョーライ病院、フエ医科薬科大学病院の皆様、国際交流プログラムを計画していただいたフエ医科薬科大学の先生と学生に感謝を申し上げます。診療放射線技師の皆様は知識や技術が未熟な私たちに日本ではできない多くの経験をさせてくださいました。また、フエ医科薬科大学の学生とはかけがえのない時間を過ごせました。本研修で準備から引率まで多くのご支援をいただいた、松尾教授、水田教授、霜村講師、石田助教、本学職員の方々に感謝申し上げます。